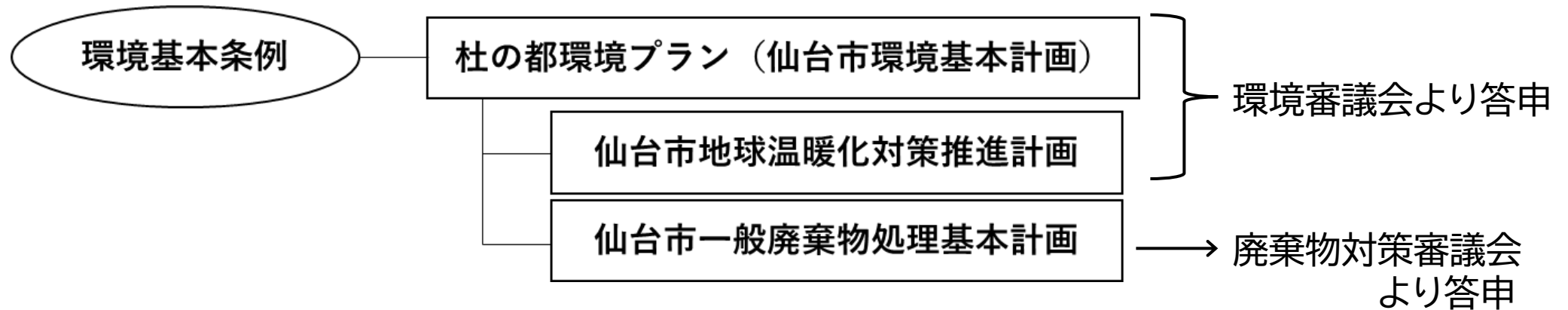


「杜の都環境プラン」等の 改定に係る答申の概要

1. 改定の趣旨

「杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)」とその個別計画である「仙台市地球温暖化対策推進計画」(いずれも計画期間は令和3年度から令和12年度)について、中間年度となる本年度に、中間評価等を踏まえた一部見直しを行う。

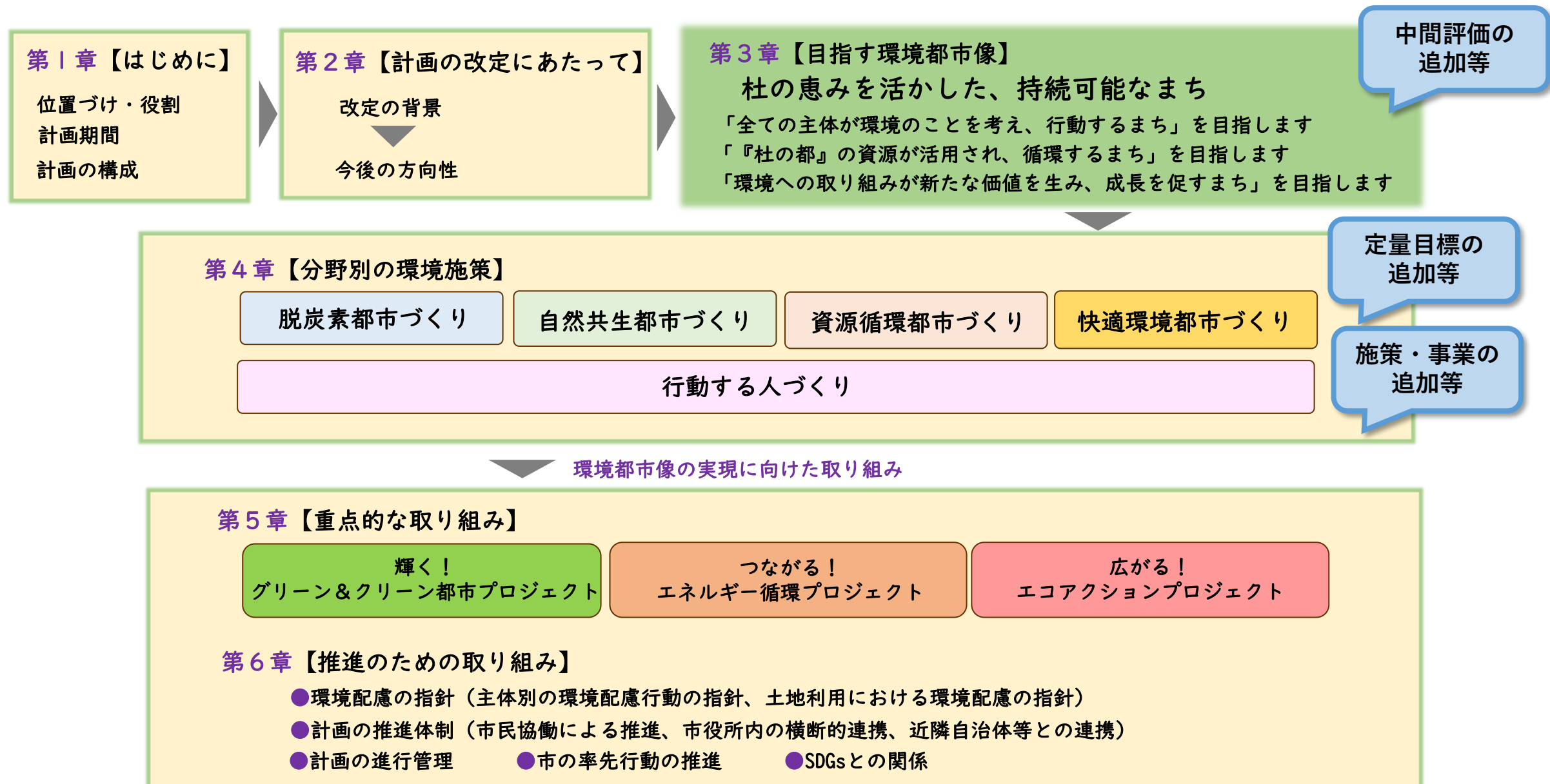
【計画の体系】



2. 全計画に共通する修正点について

- ✓ダイバーシティ推進指針を踏まえ、計画の推進に向けて多様な価値観、発想を取り入れる視点を追記。
- ✓社会情勢の変化を反映するとともに、図表を最新のデータに更新(気温の変化傾向・温室効果ガス排出量の推移等)。

3. 杜の都環境プランの構成及び主な見直し箇所



4. 杜の都環境プランの分野別の定量目標[現行計画]

1. 脱炭素都市づくり

地球温暖化対策推進計画

温室効果ガス排出量

〈中期目標〉 2030年度に2013年度比で55%以上削減(森林等による吸収量を含む)

〈長期目標〉 2050年までに実質ゼロ

2. 自然共生都市づくり

- みどりの総量: 現在の水準を維持・向上させる
- 猛禽類の生息環境: オオタカ・サシバの生育環境を維持・向上させる
- 身近な生きものの認識度: 市民の認識度を現在よりも向上させる

3. 資源循環都市づくり

一般廃棄物処理基本計画

- ごみ総量: 2030年度に33万トン以下
- ごみの最終処分量: 2030年度に4.6万トン以下
- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量: 2030年度までに400グラム以下
- 家庭ごみに占める資源物の割合: 2030年度までに30%以下

4. 快適環境都市づくり

- 環境基準の達成: 大気、水、土壌及び騒音に関する環境基準を達成する
- 環境に関する満足度: 8項目の満足度を現在よりも向上させる

5. 行動する人づくり

- 日常生活における環境配慮行動: 25項目の実践割合を現在よりも向上させる

5. 各計画の定量目標の追加・改定について

(1)自然共生サイトの数【追加】

杜の都環境プラン

自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ(※1)」の実現に向け、国が自然共生サイト認定制度を創設したことを踏まえて、市内における認定された自然共生サイト(※2)の数を自然共生都市づくりの定量目標として新たに設定する。

定量目標	自然共生サイトの数 認定された自然共生サイトの数を15か所以上とします。
------	---

※1：自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること
※2：30by30目標達成に向けて、地方公共団体や民間等の取り組みにより生物多様性の保全が図られていることを国が認定した区域。

(2)ごみの最終処分量【改定】

杜の都環境プラン

一般廃棄物処理基本計画

焼却灰と直接埋立の合計値である最終処分量は減少傾向にあり、すでに最終目標を達成している。
令和6年度の最終処分量(ごみ総量に対する最終処分量の割合)により最終目標を改めると5千トン減の4.1万トンとなるが、さらなる取り組みの強化による削減効果を加味し、6千トン減の4.0万トンを目指すこととする。

基本目標	令和6年度 実績値	当初	▲6千トン ➡	改定案
		令和12年度 最終目標		令和12年度 最終目標
最終処分量	4.2万トン	4.6万トン		4.0万トン

6. 各計画の施策改定のポイントについて

■ 脱炭素都市づくり

杜の都環境プラン

地球温暖化対策推進計画

- ・新築建築物への太陽光発電設置等促進制度の導入等について追記。

■ 自然共生都市づくり

杜の都環境プラン

- ・ネイチャーポジティブの実現に向けて、生物多様性の維持・回復・創出を図る取り組みを推進していくことを追記。

■ 資源循環都市づくり

杜の都環境プラン

一般廃棄物処理基本計画

- ・循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行の推進について追記。
- ・処理原価を根拠とする手数料(事業ごみ処理手数料等)の見直しを検討する旨追記。
- ・雑がみ、プラスチック資源、リチウムイオン電池等の分別徹底の周知を強化していくことを追記。

■ 行動する人づくり

杜の都環境プラン

- ・市民が環境に関心を持ち、理解を深め、配慮活動を実践できるよう、新たな環境学習・啓発拠点について、他の学習拠点との機能分担等を考慮しながら検討を進めることについて追記。
- ・中間評価を踏まえ、更なるごみ減量や、脱炭素社会の実現に向けて市民の行動変容を促すため、仙台らしい環境にやさしい行動を「杜の都スタイル」として発信を強化していくことを追記。